



“Program Update”

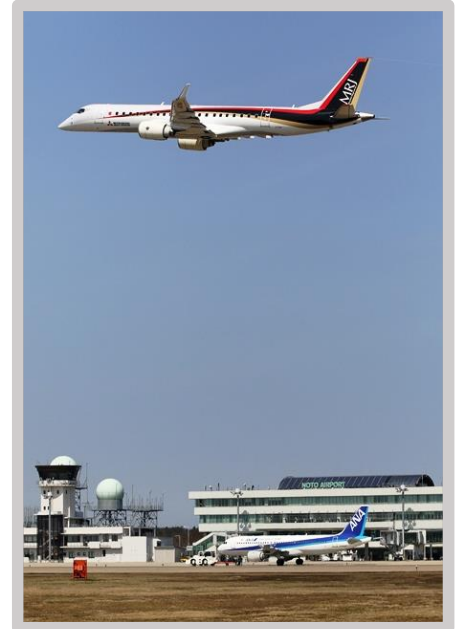
飛行試験の状況

3月の中旬以降、飛行可能な気象条件では連日飛行試験を実施しています。片エンジンでの飛行、エンジンや補助動力装置の空中停止・再始動、非常用発電機の機能点検など安全飛行に関する特性や緊急時のシステム機能・操作手順に関する多くの項目を飛行で確認しています。

3/31には、能登空港にて滑走路上の低空飛行を行いました。この飛行では、速度・高度等を地上／機体の両方で計測し、その結果を照合することで、搭載計器を校正するためのデータを取得しています

飛行試験の初期フェーズを計画通り完了した1号機は、4/13～5月中旬まで計画改修に入り、今後の試験で必要となる計測機器の搭載等を行っています。

2号機はエンジン試験を行っており、5月より走行試験、飛行試験に移行する予定です。



能登空港上空にて (3/31)

新役員体制について

4/1、三菱航空機は、新たな役員体制を整えました。

シアトルエンジニアリングセンター長を兼務する副社長の巽重文は、三菱重工で機体設計のキャリアを積んでおり、シアトルでの開発全体を取りまとめます。モーゼスレイクフライトテストセンター長を兼務する副社長の石川彰彦は、三菱重工の製造部門で得たフライト準備作業や機体メンテナンスの知見を活かし飛行試験を指揮します。名古屋では副社長の岸信夫が引き続きチーフエンジニアとして開発作業を統括します。

MRJ開発は、型式証明取得に向け新たなステージを迎えています。日本・シアトル・モーゼスレイクの3拠点体制にて試験を着実に実行し、開発を加速していきます。



機能試験中の2号機



“Hot Topic”

北米モックアップキャラバンで客室をPR



米国三菱航空機(MITAC-A)では、北米地区のエアラインへMRJをPRするため、キャビンモックアップのPRキャラバンを実施しています。モックアップをトレーラーに積載して各地を巡るユニークなスタイルのキャラバンは、4/5に、展示会(MRO America)開催中のダラスを皮切りにスタートし、その後 Trans States Holdings (TSH)の本拠地であるセントルイスを訪れました。ダラスでは展示会来場者等約360人、セントルイスではTSHの社長以下ほぼ全社員の600名以上の訪問を受け、快適な客室を体験頂くと同時に、多くの期待の声をいただきました。北米は世界で最もリージョナルジェット機の運航機数も多く、需要が高いエリアです。多くのお客様にMRJをご紹介し、導入拡大を図るべく、モックアップキャラバンは、5月中旬まで北米を疾走し、最終展示場所のシャーロット(RAA・北米リージョナル航空業界の年次総会開催地)を目指します。